

# 平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

## 1. 学校概要

学校名 大牟田市立みなと小学校 (※正式名称を記載)  
種 別  保育園・幼稚園  小学校  小中一貫<sup>※注1</sup>  
 中学校  中高一貫<sup>※注2</sup>  高等学校  
 教員養成大学  専修学校、各種学校  
 特別支援学校  
 その他 (例: 小中高一貫 )

※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒836-0072

福岡県大牟田市上屋敷町2丁目3-1

E-mail minato-es@st.city.omuta.fukuoka.jp

Website \_\_\_\_\_

幼児児童生徒数 男子 143名 女子 122名 合計 265名

幼児・児童・生徒の年齢 7歳～12歳

## 2. 報告期間

平成29年4月～平成30年3月

※報告書提出時点～平成30年3月末までの活動は、予定(見込み)として記載ください。

## 3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要 (800字程度+活動内容を表す写真数枚)

※チェック事項1-1、2-1に対応

当校は、「共に夢を拓くみなとっ子」を学校理念として、ESDを、学校の教育活動全体を通じて、人格の発達や自立心、判断力、責任感などの人間性を育むとともに、他者との関係性、社会との関係性、自然環境との関係性を認識し、「かかわり」「つながり」を尊重する活動と捉え、ESDの実践を通して人間関係形成能力、意思決定能力、情報活用能力、将来設計能力の力の育成を目標とした。具体的には、海洋教育、福祉教育を柱に、①世界遺産三池港を中心とした大牟田の町の持続発展に係わる学習、②地域のお年寄りの方や福祉施設に係わる学習を行った。

### ① 世界遺産三池港を中心とした大牟田の町の持続発展に係わる学習

校区にある明治日本の近代化遺産「三池港」を軸に据え、総合的な学習の時間を中心に「海洋教育」を教育課程に位置づけた学習を行った。3年生から6年生の総合的な学習の時間における4年間で、「海に親しむ」「海を知る」「海を守る」「海を利用する」の4つのキーワードを系統的・段階的に設定し、有明海の生物や三池港と周辺施設の魅力、他の近代化遺産との関わり等を学

び、「海と人との共生」を考えた。そして、大牟田市の持続発展のために自分たちには何ができるかを考え、校内や地域に向けた発信や、実践を行った。具体的には干潟体験、三池港クルージング、TV会議、推進校合同フォーラムを各学年に位置づけ、実践を行った。海洋教育は海の環境を守る、海と関わる産業を考える、地域の未来を考えるという学習であり「海を通したESD」といえる。



①の写真（3年干潟観察）



①の写真（4年三池港見学）



①の写真（5年三池港クルージング）



①の写真（6年海洋フォーラム）

## ② 地域のお年寄りの方や福祉施設に係わる学習

地域の施設調べ、そこで働く人々の思い、お年寄りの方や目や耳が不自由な方との交流などを位置づけた福祉教育を教育課程に位置づけている。1, 2年生は生活科を中心に学校の設備や校区内の施設について学び、自分とのかかわりについて考える。3年生から6年生は総合的な学習の時間に、アイマスク体験、高齢者疑似体験、目や耳が不自由な方との交流、福祉施設訪問などを系統的に位置づけることで、福祉に対する理解を深め、お互いに助け合い協力し合い、強い連帯感に支えられて住みよい社会をつくるために、共に生きていく実践的態度の育成を図っている。



②の写真（6年福祉施設訪問）



②の写真（6年福祉施設訪問）

## (2) 活動の詳細

### ① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

#### ア. 活動分野 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input checked="" type="checkbox"/> 3. 防災	<input type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input checked="" type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input checked="" type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input checked="" type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input checked="" type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input checked="" type="checkbox"/> 17. その他(海洋教育)		

#### イ. 活動を通して育みたい資質や能力 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入 )	

#### ウ. 活動時間 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input checked="" type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述 )	

#### エ. 使用した教材 (書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名)

海まるごと大研究 1～5、守ろう・育てよう日本の水産業 1～5、さがして海ハカセ 1～3、干潟生物観察図鑑、有明海、海辺の生き物図鑑、日本列島、水をとったら? 1～3、海のひみつ、きせきの海をうめたてないで!、ビーチコーミングをはじめよう、海の中のぞいた 等

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

中心として取り組んでいるのは海洋教育と福祉教育で、主に総合的な学習の時間に取り組んでいるため、海洋教育と福祉教育は教育課程に総合的な学習の中で位置づけている。また、本校では、総合的な学習の時間だけでなく、他教科等との関連を考え、ESDの視点で学習に取り組んでいる。その活動計画については、ESDカレンダーやストーリーマップにまとめている。福祉教育、海洋教育を進めていく上で、どの教科のどの単元とつながっているのか、教師が意識しながら学習を進めていくことができるようにしている。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

海洋教育に関しては、担当者を決め、担当者と校長、教頭、主幹、研究主任がワーキンググループとなって、他の海洋教育推進校と話し合いながら、活動内容を計画している。年間での活動計画を決めているので、計画的に見通しを持って活動に取り組むことができている。

また、福祉教育に関しては、地域の施設訪問や身体の不自由な方との交流の計画を立て、毎年、継続的に行うことができる体制をとっている。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

海洋教育推進校3校交流会、6年生TV会議、子ども海洋フォーラム、ユネスコスクール全国大会等での児童・職員の実践発表・パネルディスカッション等を通して、子ども達には①人間関係形成能力(コミュニケーション能力・自己肯定感・あいさつ・感謝・協力・信頼)②意志決定能力(自分で考え自分で行動する・責任を持って行動する)③情報活用能力(働くことに興味関心をもつ・働くことの意義が分かる)④将来設計能力(自分の役割を知る・夢や希望をもつ)が、育成された。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

○海洋教育推進3校交流会(7月)  
・海洋教育推進の3校の6年生が顔を合わせ、今後の取組の計画を交流。その際、地域の方や保護者に参加の呼びかけを行った。

○海洋教育こどもフォーラム 2018in おおむた(1月)  
・大牟田市の海洋教育推進3校と佐賀県、鹿児島県の海洋教育推進校が集まり、取組の内容を交流。その際、地域の方や保護者に参加の呼びかけを行った。

○ユネスコスクール子どもサミット(1月)  
・大牟田市文化会館で行われたサミットで、海洋教育の取組を発信。

○第5回全国海洋教育サミット(2月)  
・東京大学で、6年生の代表児童が海洋教育の取組を発信。

○校内ユネスコスクール集会(1月)  
・校内のユネスコスクール集会を開き、地域の方や保護者に参加の呼びかけを行った。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など)  
(200字程度)  
※チェック事項 2-3 に対応

笹川平和財団海洋政策研究所、東京大学海洋アライアンス 海洋教育促進研究センター、三池港を守る会、豊かな海づくり大会推進委員会、大牟田市港振興室、ネイチャーガイド・オオムタ「自然案内人」、大牟田市教育委員会、佐賀県玄海みらい学園、鹿児島県坊津学園

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成(200字程度)  
※チェック事項 2-4 に対応

大牟田市立天領小学校、天の原小学校は本校と同様、海洋教育の推進校となっているため、3校でワーキンググループを組織し、協力して海洋教育を推進している。干潟観察や乗船体験、交流会、TV会議などの活動を合同で計画し実施している。また、同じく海洋教育推進校である佐賀県玄海みらい学園、鹿児島県南さつま市立坊津学園とは、海洋教育こどもフォーラムで交流している。玄海みらい学園には、本校教諭が訪問し、実践の交流を行っている。

- ⑧ ユネスコスクール<sup>1</sup>の活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）  
※チェック事項 2-5 に対応

本校の校区内には、世界文化遺産となった三池港とその関連施設がある。しかしながら、これまでは三池港を教材とした学習活動はほとんど行われていなかった。そこで、三池港を中心とした学習過程を総合的な学習の時間に位置づけ、ESDに取り組んでいる。その結果、子ども達が三池港について詳しく知り、誇りに感じるようになるとともに、大牟田市の未来について考えることができる子どもを育てることができている。

- (3) 平成30年度の活動計画（200～400字程度）

海洋環境の保全を図りつつ国際的な理解に立った持続可能な海洋開発と利用を可能とする知識、技能、思考力、判断力、表現力を有する人材育成を目指す。この目的を達成するために、大牟田版の海洋教育のカリキュラムの構築を推進する。そのことを通して、世界遺産である三池港や有明海に関心を持ち、地域や国際的な課題を意欲的に解決できる子どもを育てる。